

日本あちこち河川遡行記(第 261 回)

奈良 1-1. 竜田川(その 2) 令和 1 年 5 月 3 日(金) 快晴

令和になり最初の遡行に出かける。今日のこだまは連休中なので満員で、当方の座席も 1 番 D 席の端っこである。新大阪、難波、生駒と乗り継ぎ前回の折り返し点の「萩の台」駅で下車。川と駅とは少し離れており暫し南西方向に市道を歩く。道端には今年初めて見る菖蒲類が花を咲かせている。



01.今回調査区間（オレンジ色）位置



☒

02.5 月らしい花が咲いている

最初の橋に来ると国道沿いにコンビニがあるのでトイレを拝借し、飲み物を買って橋に戻る。左右から山と丘が迫り川は蛇行を繰り返している。平成 18 年更新の手元の地形図に載っていない国道 168 号のバイパスの橋は、旧道との交差部で橋の端が大きく拡幅されている。1 径間で越える橋は PC 桁橋で、その拡幅部の桁が本線部の桁に繋がっている。橋脚の様な支点無しでよくも繋いだものだ。



03. 拡幅部ではPC桁にPC桁を繋いでいる

バイパスは川を離れ台地の上に逃げていくので旧道を南に進む。谷間が狭まり生駒市から平群町に入る。1.5車線の狭い国道を進むと瓦材を使った大きな交通安全啓発板が立っている。この辺りは「西和」地区と謂われているようで「西大和」を指しているのだろう。この間歩いた法勝寺川は「西伯」地区を流れており、西伯耆のことであり。いまだに昔の国名が利用されている。



04. 平群町に入る



05. 瓦で造られた交通安全啓発板

谷間はいよいよ狭まり、旧道と近鉄線が固まって隘路を通過していく。生駒線は連続して川を越え、道路のフェンスの隙間から下の線路を見れば「第二、第三生駒川橋梁」と書かれた標柱が立っている。この川は生駒川と言っていたのだ。ネットで調べると、歌に読まれた「竜田川」は「大和川」本流だとの説もあるようだ。

第三生駒川橋梁の下流側に川を越えて綱が張り渡されている。道路地図を見ると「栴原の勧請綱」と記載されている。集落に疫病、悪霊が入らないように龍に見立てた綱を川に張り渡した物で町内には他にも多くあるようだ。それにしても「栴」とは見たことのない漢字だなー。



06.川の上の綱は「栴原の勧請綱」らしい



07.竜田川は生駒川と言っていたのだ

急な下り坂道から南南西の方を見れば「信貴山」が頭を出している。目立ちがり屋だな信貴山は。渓谷の終わりに来ると生駒線に駅が有る。「元山上口」駅で駅の手前には33.3%の勾配標が有る。急勾配で渓谷を越えて行くのだ。



08.信貴山 (H=437m) が頭を出している



09.狭く急な溪谷を 33.3%で進む

線路を越え「櫟原橋」を見て右岸側の町道を南に向かう。またまた見慣れない漢字が現れる。大和を歩くときは漢和辞典が要るなー。道の両側に季節外れの菊の畑が広がる。仏花用の菊かな？

広くなった平地を暫く歩き「西向橋」に来ると「竜田川まほろば遊歩道」なる茶色の砂利舗装された道が始まる。車の来ない遊歩道はグー。



10.菊畑があちこちに広がる



11.「竜田川まほろば遊歩道」を進む

む

川の両側を橋に出会う旅に右往左往しながら下流に進む。町の中心部に近づくと町営バスのバス停が現れる。バス停標柱には「高屋くん、と左近くん」が漫画チックに描かれている。町と縁のある「高屋王」と「島左近」のようだ。「森脇橋」に来ると橋の上にバス停が有るぞ。岡山の湯原以来の橋の上のバス停だ。



12.町営バス停には二人の町のキャラが



13.橋の上にバス停が有るぞ

気温はどんどん上がり今日も暑くなりそうだ。

川近くの国道沿いに道の駅が有るので川から離れて駅に向かう。駅名は「道の駅大和へぐり」。平群では読めない人もいたので大和を頭に付けてひらがな表記にしている。入り口に有る標識（看板）がちっちゃいなー。食堂は満員で食べ物屋で待たされるのは大嫌いなので昼は諦め売店をうろうろする。花売り場では藤の花の一部を切り取ったのが売られている。藤の切り花は初めてだ。



14. 「道の駅大和へぐり」に立ち寄る

15. 藤の花を売っているぞ

国道に出て川に向かうと「日本一 平群の小菊」と書かれた大きな看板が立っている。あの菊畑は小菊を栽培していたのだ。聞くと見るでは大違いだ。



16. 絵地図が有ったのでカシャ



17. あの菊は小菊だったのだ

川に戻り土手道を南に向かう。右岸側には多くの鯉幟が5月の風を受けて泳いでいる。右岸側に渡り進むと西和名物のOVが川と国道をまとめて越えている。ここのは先日のOVと違い川を全て越えている。生駒とはちやうで一、と言ってるぞ。



18. 鯉幟の季節到来

19. 平群ではちゃんと川を越えていますぞ

生駒山脈と矢田丘陵の間の広い谷間を流れてきた竜田川が丘陵の南端部を横切る所までやって来た。南向きから一旦東に方向を変え丘陵の南端部と独立した丘の間に吸

い込まれる。足元には平群町のマンホールが現れ、絵柄は町の木と花のどこでも見かけるパターンである。ここにも菊が有る。



20.川は左右の丘の間に向かう

21.平群町は町の木と花の檜と菊

右側の丘の麓には日蓮宗の大きな寺が有り、川沿いの国道のブロック積みの上に「平成33年・・・」と書かれたお知らせが見える。令和3年と書き直さない。



22.平成33年は無いよー

両側から山が迫り川と国道は仲良く関門に入って行く。幾分広くなると「竜田公園」が現れ、遊歩道が川沿いに有るのでそちらに足を向ける。竜田公園と称するだけ

あつて紅葉の大群が覆っている。秋のモミジは勿論だが青葉の若草色のモミジも良いものだ。



23.最後の溪谷に川も国道も突入



24.竜田川と言えば紅葉だが、今は青葉だ

東向きから徐々に南に方向を変えると「斑鳩町」に入る。斑鳩に帰ってきました。遊歩道を歩いて行くと擬宝珠の付いた太鼓橋が数橋続いて対岸にも行ける。秋にもう一度来たくなる公園である。



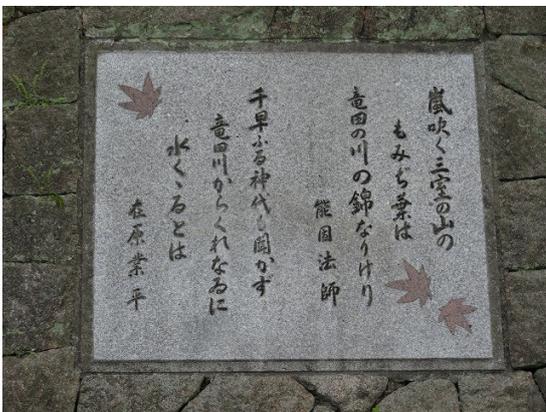
25.斑鳩町に入る



26.川沿いの公園はもみじがイッパイだ

右岸、左岸とうろうろしながら進んで来ると最後の関門の「三室山 (H=82m)」が右岸側に待っている。登山?道の入り口には在原業平と能因法師の有名な二句が石に

彫られている。山の上からは三方が良く見える絶好の場所だろうから三室山と名付けたのだろう。



27.合流点手前に「三室山」がある

28.山に登る道には有名な句が

やがて大和川本流との合流点に到着。本流とは直角に合流しているが増水時に大丈夫だろうか？右岸側には国交省河川事務所のパトロールカーが駐車している。その先には河川管理境界標識が立っている。竜田川は合流部から上流部まで全て奈良県管理なのだ。



29.川は直角に大和川に合流している 30.丁度河川事務所のパトロールが居た

JR 王寺駅まで 1.5km、本流の右岸側を西に向かう。正面に信貴山が頭を出してこちらを見つめている。あんたは目立つなー。王寺駅から大和路快速に乗り帰路につく。次は何川にするかな？



31.信貴山は目立つなー

本日の歩行距離：11.3km。調査した橋の数：30。
総歩行距離：10,407.7km。総調査橋数：13,175。
使用した 1/25,000 地形図：「信貴山」（和歌山 5 号-1）